

生物多様性とちぎ戦略

～ つなごう いのちの共生を いま「とちぎ」から ～

概 要 版



栃 木 県

平成22年9月
(平成28年3月改正)

生物多様性とは？

生物は長い年月をかけて進化し、異なった「個性」を獲得してきました。このお互いの「個性」を活かした生物どうしの「つながり」が、地域特有の生態系や自然景観を生み出し、また、世代を超えた命の「つながり」が、今、私たちが生活している地球環境を創り上げてきました。この「個性」と「つながり」が生物多様性です。

3つの生物多様性

☆生態系の多様性

森林、湿原、河川など様々なタイプの自然環境があることで、それぞれの場所には、その地域特性に応じた生態系が成立します。

☆種の多様性

様々な種類の生物が生息・生育している状況のことです。

本県では、17,000種を超える動植物の生息・生育が確認されています。

例えば、同じサクラであっても、ヤマザクラ、エドヒガンなど多様な種が存在しています。

☆遺伝子の多様性

同じ種でも、その生息・生育する場所によって、様々な違いがあることです。

例えば、同じゲンジボタルでも、東日本と西日本では発光間隔が異なります。

また、県内に生息しているミヤコタナゴでも、水系ごとに遺伝子が大きく異なることが確認されています。



鬼怒沼から望む日光白根山



ゲンジボタル(宇都宮市)

生物多様性からの恵み

☆土壌の形成や水の循環などの自然環境の維持・形成

☆食料、木材、衣服、医薬品などの供給

☆気候変動の緩和、花粉の媒介などの調整的な機能

☆生物の機能や形態の産業への応用、農作物の品種改良

☆自然とのふれあいや安らぎの場の提供

☆地域特有の文化に影響



水の循環(尚仁沢自然環境保全地域)



木材の供給(矢板市)



花粉の媒介



500系新幹線(カワセミの形態を参考)



自然とのふれあい(日光自然博物館)



チチタケ(栃木県特有の食文化)

とちぎの生物多様性の概要と特徴

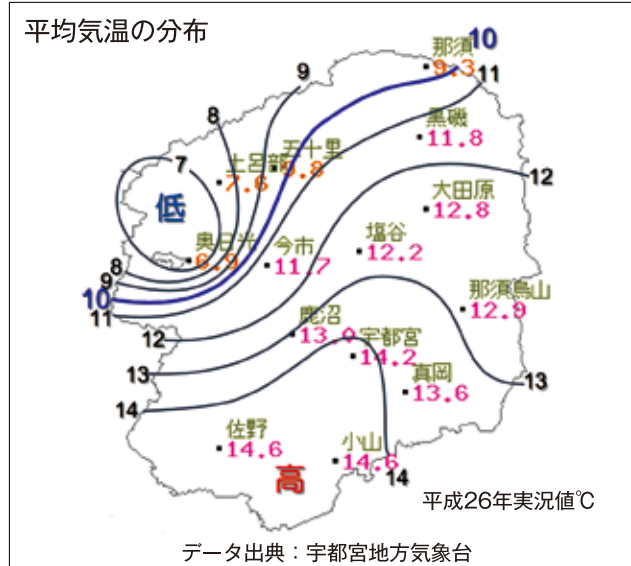
本県は、山岳、河川、湖沼、湿地など変化に富んだ地形を有しています。また、北西部の山岳地帯が太平洋側気候と日本海側気候の境に位置するとともに、南方系と北方系の植物の境界といわれる年平均気温13℃の等温線が本県の中央部を横切っています。このように地形的、気候的に多様であることから、様々な動植物が生息・生育しています。



日光白根山



ラムサール条約湿地(奥日光の湿原)



那珂川



石畑の棚田(茂木町)



鬼怒川



渡良瀬遊水池のヨシ原

本県の地名を冠した植物の例



シラネアオイ(日光市)



ニッコウキスゲ(日光市)



ナスヒオウギアヤメ(那須町)



シモツケコウホネ(日光市)

那須野ヶ原が全国有数の生息地



オオタカ(那須塩原市)



ミヤコタナゴ(大田原市)

日本固有種で本県と千葉県のごく限られた地域にのみ生息

とちぎの生物多様性の現状と課題（平成22年9月策定時）

現 状	課 題
<p>1 野生動植物の生息・生育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ○都市化の進展・大規模開発などにより生息・生育地が減少・細分化 ○過度の捕獲・採取などにより絶滅のおそれのある種が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ★野生動植物の生息・生育地の保全や生態系ネットワークの維持・形成 ★絶滅のおそれのある種の保全 ★動植物の生態や生息・生育状況の継続的な調査・研究
<p>2 里地里山の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○雑木林や人工林等が手入れ不足により荒廃 ○農地や農地周辺では一部で管理が不十分 ○環境にやさしい農業への関心の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ★雑木林や人工林の手入れ不足を解消するため多様な主体による整備や管理活動の活性化 ★農業従事者や地域住民による共同活動による農地等の継続的な管理、環境にやさしい農業生産活動の拡大 ★各地域で生物多様性を地域資源として活かす取組の促進
<p>3 野生鳥獣による被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シカ・イノシシ・サルなど一部の鳥獣による、生態系への影響や農林水産業被害が発生 	<ul style="list-style-type: none"> ★野生鳥獣の保護管理を、科学的かつ計画的に推進 ★野生鳥獣を寄せ付けない地域づくりの推進 ★鳥獣を捕獲する狩猟者を育成
<p>4 外来種による被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外来種によって、在来種の数の減少や生息地の縮小が発生 ○外来種による農林水産業や人の生命・身体への被害が懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ★外来種の生息生育状況や被害状況の把握 ★重点的に外来種の駆除を実施 ★屋外放逐防止のための普及啓発
<p>5 地域温暖化による影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化による動植物への影響が懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ★地球温暖化防止と生物多様性保全を一体として捉える視点 ★県民総ぐるみによる地球温暖化防止対策の積極的な取組
<p>6 生物多様性を支える人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然と身近に接する機会が不足 ○生物多様性という言葉の認識不足 ○多くの県民や事業者が自然環境の保全に関心 	<ul style="list-style-type: none"> ★県民が気軽に自然とふれあうことのできる仕組み ★生物多様性に対する理解促進 ★協議による保全活動や社会貢献活動の拡大 ★環境学習や保全活動、自然とのふれあい活動などを担う人材の育成・活用

生物多様性とちぎ戦略の基本理念と目標

基本理念

豊かな生物多様性を守り育て、その恵みを次の世代に引き継ぐ
「人と自然が共生するとちぎ」の実現

目標（目指すべき社会）

多様な生物とそれらのつながりを育む社会

将来にわたって生物多様性からの恵を分かち合う社会

多様な主体の協働により自然との共生を守り育てる社会

10年後の各地域イメージ



実現するための取組（6つの行動計画と5つの重点プロジェクト）

6つの行動計画

★本県の現状と課題に対応した取組を体系的に整理

- ①地域の生態系の保全・絶滅のおそれのある種の保全
- ②里地里山の活用と保全
- ③野生鳥獣の保護管理
- ④外来種の防除
- ⑤地球温暖化への対応
- ⑥生物多様性を支える人づくりの推進

重点プロジェクト（前期：平成21年度～平成27年度）の状況

1 指標項目の状況

指標項目については、一部の項目を除き目標を達成する見込みであり、一定の成果を得て終了する取組もありますが、新たな課題への対応など、引き続き行動計画に沿った取組が必要です。

1 里地里山保全再生プロジェクト

とちぎの里山林モデル地区数

0 箇所 → 6 箇所

地域ぐるみでの獣害対策取組地区数

0 箇所 → 13 箇所

2 河川・湿地保全再生プロジェクト

外来種駆除活動数

5 箇所 → 10 箇所

人工産卵床の設置箇所数

80 箇所 → 66 箇所

3 野生動物保全プロジェクト

自然環境保全地域指定数

26 箇所 → 29 箇所

生態系維持回復事業実施箇所数

0 箇所 → 2 箇所

4 生物多様性を支える人づくりプロジェクト

自然保護活動ボランティア数

14,045 人 → 22,000 人

生物多様性アドバイザー認定者数

0 人 → 251 人

5 企業・大学との連携プロジェクト

「いきものつながり調査」報告数

0 報告 → 1,200 報告

野生鳥獣管理指導者の養成者数

0 人 → 121 人



2 指標項目以外の状況

指標項目以外の各取組についても一定の成果は得ていますが、今後も継続が必要な取組が多いため、戦略の終期（～H32）を見据えて実施していく必要があります。

重点プロジェクト（後期：平成28年度～平成32年度）

★重要かつ緊急性のあるものを今後5年間で取り組む重点プロジェクトとして設定

生物多様性を支える農山村活性化プロジェクト

持続可能な農林業を推進し、人の営みで保たれていた農山村地域を活性化することにより、生物多様性の維持・向上に努めます。

○ 持続可能な農林業の推進

- ★ 豊かな森林資源を活用した皆伐の本格導入などによる循環型林業を推進します。
- ★ 持続的な農業を支える生産基盤の整備を進めるとともに、環境負荷の低減や生態系に配慮した取組を推進します。



循環型林業の推進

○ バイオマスエネルギーの利用促進

- ★ 農山村の地域資源を活用したバイオマスエネルギーの利用を促進します。



バイオマス発電

○ 人材・担い手の確保・育成

- ★ 若い世代を中心に農林業の魅力などを発信し、県内外・異業種からの人材を呼び込むとともに、地域の核となる担い手の確保・育成を推進します。

○ 体験型交流の推進

- ★ エコツーリズムやグリーン・ツーリズムなどを推進し、交流人口の拡大を図り、農山村の活性化を促進します。
- ★ 農産物直売所等の交流拠点施設の機能の強化を促進し、地域の活性化を推進します。

誇れる自然（自然公園等）の保全・利活用プロジェクト

日光国立公園や県立自然公園、ラムサール条約湿地など本県を代表する地域資源の保全・利活用を行う取組を推進します。

- 自然公園等の情報発信の強化
- ★ 自然公園等の魅力を地域と連携して更に磨き上げ、積極的に発信していきます。



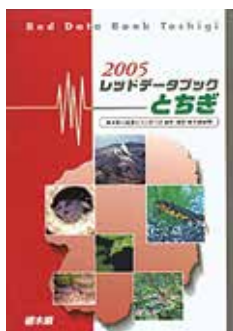
旧英国大使館別荘（日光市）



中禅寺湖と男体山（日光市）

- 誘客促進に向けた環境整備
- ★ 東京オリンピック等の開催により見込まれる国内外の観光客の増加に向け、受入環境の整備を推進します。

- 栃木県版レッドリスト及びレッドデータブックとちぎの改訂
- ★ 栃木県版レッドリスト及びレッドリスト掲載種について解説したレッドデータブックとちぎの改訂を行い、本県の生物多様性の現状を広く県民に周知します。



ワタラセツリフネソウ
(第3次レッドリスト改訂事業
中間報告より)

栃木県版レッドリスト、レッドデータブック

- 絶滅危惧種等の生息・生育地の保全再生
- ★ 奥日光や鬼怒川礫河原、渡良瀬遊水地など、外来種の影響が深刻化している地域を中心に、多様な主体の参加による重点的な駆除を実施し、絶滅危惧種等の生息・生育地の保全再生を進めます。
- ★ 特に生息・生育地が限られる絶滅危惧種等については、遺伝的多様性の維持に配慮しながら飼育、栽培等を行います。



ミヤコタナゴ（大田原市）



シモツケコウホネ（日光市）

身近な自然（里地里山等）の保全・利活用プロジェクト

里地里山、河川・湿地など、身近な自然の保全・利活用を行う取組を推進します。

○ 地域主体による里山林の保全再生

- ★ 地元住民が中心となった里山林の整備・管理を促進し、地域の憩いの場への再生など、明るく安全な森づくりを推進します。



里山林整備地



里山林を活用したイベント

○ 里山の担い手・リーダーの育成

- ★ 里地里山の整備や利活用のノウハウを習得する機会の提供や里山林保全団体と企業等との交流を促進します。



とちぎ里山塾



とちぎの元気な里山林サミット

○ 里地里山、河川・湿地等での保全活動や身近な地域資源の利活用の推進

- ★ 各種保全活動や参加体験型の環境学習などを推進します。
- ★ 地域の身近な自然をシンボルとして活用する取組を広めるとともに、これらの農産物の消費拡大を促します。



渡良瀬遊水地



井戸湿原（鹿沼市）

野生鳥獣との共生プロジェクト

野生鳥獣を適正に管理して鳥獣被害を軽減し、農林業等への就労意欲の向上や定住環境の改善を図り、野生鳥獣との共生を可能とする地域づくりを推進します。

○ シカ・イノシシの捕獲強化

★ 市町が行う有害捕獲の支援を強化するとともに、県も捕獲に取り組み、平成25年度の生息数を平成35年度までに半減させます。



シカの群れ



イノシシ

○ 捕獲の担い手の確保・育成

★ 狩猟免許の取得支援や実践的な捕獲技術講習などにより担い手の確保・育成を推進するとともに、認定事業者を支援する取組を進めます。



くくりわなの組立て実習



ベテラン狩猟者による現場実習

○ 被害防止の環境整備・防除対策

★ ヤブの刈払い等の環境整備を推進するとともに、侵入防止柵の設置や森林における忌避剤散布及びネット巻き等を効果的に実施し、獣害に強い集落づくりを進めます。



林業被害（樹皮剥ぎ）対策



イノシシ侵入防止電気柵の設置

人、地域、企業、団体等の協働推進プロジェクト

自然の恵みを将来にわたって持続的に利用していく社会を目指すため、人、地域、企業、団体等の各主体の協働による取組を発展させ、「環境を守り、育て、活かす」基盤づくりを進めます。

○ 自然保護活動の支援・コーディネート

★ 生物多様性アドバイザーなどの各種人材を活用し、各種保全活動の立ち上げ、取組の継続化などの支援やコーディネートを推進します。

○ 社会貢献活動の推進

★ ボランティアニーズや企業の社会貢献意欲を把握し、企業と地域住民・保全活動団体とのマッチングによる社会貢献活動を推進します。



企業の参加による外来種除去作業



高校生の参加による外来種除去作業

○ 各種活動団体の連携促進

★ 自然の保護や利活用を目的として地域で活動する団体等の連携を促進し、それぞれの活動が本県の生態系ネットワークを支えているとの認識を高め、県民一人ひとりの生物多様性保全に対する意識の向上につなげていきます。



協働によるミヤコタナゴ生息地の保全
(大田原市)



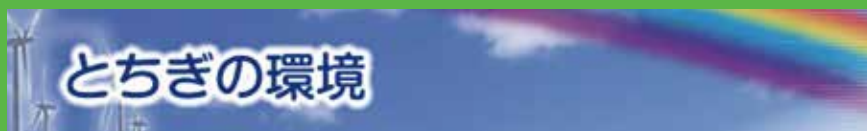
企業等による森づくり



森づくり・環境活動ポータルサイト



<http://mori.ecomori-tochigi.jp/>



<http://eco.ecomori-tochigi.jp/>

日光自然博物館ホームページ

奥日光の自然情報随時更新中



<http://www.nikko-nsm.co.jp/>

栃木県環境森林部自然環境課

〒320-8501 宇都宮市塙田1-1-20

TEL.028-623-3207 FAX.028-623-3212

自然環境課ホームページ

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d04/index.html>